

区 分	専門科目－演習科目	担当教員	伊藤泰郎、栗原理、澤田善太郎、 崔博憲、竹元雅彦、松本俊雄、 山本昌弘			
授業科目	社会学基礎ゼミナール					
英 訳	Sociology : Basic Seminar					
配当年次	2年次	通年	必選別	必修	単位数	4 単位
【授業の概要】 各ゼミに分かれ、文献の収集方法や社会学の基礎等を学びつつ、学び理解できたことを表現し議論を行い、考えを深める。						
【授業の目的】 専門教育課程の学習に先だって、受講生が社会学の学習方法等を学ぶことを目的とする。						
【到達目標】 文献の収集能力の向上、社会学の基礎概念の修得、プレゼン能力の向上、思索する力の向上。						
【準備学習(予習・復習)】 各担当教員に委ねられる。						
【授業計画】 第 1 回 各ゼミの紹介と受講生の各ゼミへのふりわけ 第 2 回 以降は各担当教員に委ねられる。						
【教科書】 各担当教員に委ねられる。						
【参考書】 各担当教員に委ねられる。						
【成績評価基準】 各担当教員に委ねられる。						
【メッセージ】 世界は不思議に満ち溢れています。各ゼミで、積極的な学びと活発な議論を期待します。						

区 分	専門科目－演習科目	担当教員	澤田善太郎・山本昌弘・伊藤泰郎 ・栗原理・竹元雅彦・崔博憲 ・古関喜之・竹中健			
授業科目	社会学演習 I					
英 訳	Seminar of Sociology I					
配当年次	3年次	通年	必選別	必修	単位数	4 単位
【授業の概要】 ゼミ形式による授業を行う。授業の進め方や内容は各担当教員による。						
【授業の目的】 ・論文やレポート作成に必要な能力を養う。 ・ゼミでの報告や議論などを通じて、自分自身の研究テーマを深める。						
【到達目標】 ・論文やレポート作成に必要な能力を習得する ・卒業論文の執筆に向けて、自分の研究テーマを明確化する。						
【準備学習(予習・復習)】 各担当教員に委ねられる。						
【授業計画】 各担当教員に委ねられる。						
【教科書】 各担当教員に委ねられる。						
【参考書】 各担当教員に委ねられる。						
【成績評価基準】 各担当教員に委ねられる。						
【メッセージ】 このゼミの受講から本格的に自分の研究がスタートします。少しずつテーマを絞り込みながら、卒業論文の作成に向けて地道な作業を積み重ねていってください。						

区 分	専門科目-演習科目	担当教員	澤田 善太郎・山本 昌弘・伊藤 泰郎 栗原 理 ・ 竹元 雅彦 ・ 崔 博憲 古関 喜之 ・ 竹中 健			
授業科目	社会学演習 II					
英 訳	Seminar of Sociology II					
配当年次	4年次 通年	必選別	必修	単位数	4 単位	
<b>【授業の概要】</b>						
ゼミナール形式により各自が卒業論文に取り組むための研究を深め、その成果を各自が発表する。						
<b>【授業の目的】</b>						
社会学演習 I において学習した成果に基づいて、学生各自が卒業論文テーマとして選択した問題を、学生各自の意図と責任において展開する。						
<b>【到達目標】</b>						
各担当教員による。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
各担当教員による。						
<b>【授業計画】</b>						
各担当教員による。						
<b>【教科書】</b>						
各担当教員による。						
<b>【参考書】</b>						
各担当教員による。						
<b>【成績評価基準】</b>						
各担当教員による。						
<b>【メッセージ】</b>						
前期および後期のはじめに、社会学演習 II にかんする詳しいガイダンスを実施する。受講生は必ず出席すること。						

区 分	専門科目-演習科目	担当教員	澤田 善太郎・山本 昌弘・伊藤 泰郎 栗原 理・竹元 雅彦・崔 博憲 古関 喜之・竹中 健			
授業科目	卒業論文					
英 訳	Graduation Thesis					
配当年次	4年次 通年	必選別	必修	単位数	4 単位	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>原則的には、社会学演習Ⅱの担当教員が、学生それぞれのテーマに沿って、卒業論文執筆のための指導をおこなう。学生は、卒業論文に取り組むための研究を各自で深める。一次資料および二次資料の収集をおこなうとともに、それらのデータを整理し、ひとつの論文としてまとめる。</p>						
<b>【授業の目的】</b>						
<p>現代社会学科で学んださまざまな知識を基礎としつつ、自己の関心に沿って選定したテーマについての研究を行い、その成果を論文として表現する。論文完成までの過程を通じて、観察力、分析力、読解力、表現力などを高めることが本科目の目的である。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
各担当教員による。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
各担当教員による。						
<b>【授業計画】</b>						
<p>授業のスケジュールは、各担当教員による。以下は、卒業論文執筆のために必要とされる基本的な項目の例である。実際のスケジュールは、各担当教員とよく相談して決めること。</p> <p>&lt;項目例&gt;</p> <p>① テーマの選定 ② 先行研究の探索 ③ 研究手法の検討 ④ 調査計画の設定 / 文献資料の収集  ⑤ 調査の実施 / 文献資料の読解 ⑥ 調査結果の整理と分析 / 文献資料の批判的精読  ⑦ 考察 ⑧ 論文構成の検討 ⑨ 論文の執筆 ⑩ 論文の推敲と校正 ⑪ 論文の編集と印刷</p>						
<b>【教科書】</b>						
各担当教員による。						
<b>【参考書】</b>						
各担当教員による。						
<b>【成績評価基準】</b>						
各担当教員による。						
<b>【メッセージ】</b>						
<p>卒業論文は、大学教育の集大成である。現在を生き、未来に羽ばたく皆さんが現代社会と向き合い、その真実を明らかにするために資料を収集し、インタビューをおこない、論理を詰めて完成させる「作品」は、きっと卒業後の皆さんの生きる糧となるはずである。皆さんが全力で頑張られることを、教員一同は期待している。</p>						